

鉱山が多里地域にもたらしたもの

鳥取県日南町企画課¹⁾

5月としては初夏を思わせるような暑さを感じる、とある日。若松滝を過ぎて町道の舗装が地道になり、車の速度を抑えながら走っていくと、やがて谷間の斜面に若松鉱山の建物群が見えてくる。その威容はまるで要塞のごとく映り、一度見たら忘れられない。

その建物群のやや右寄り下にある坑道口の前に立つ。ふさがれた隙間に顔を近づけると、涼しいというよりむしろ冷たい風が轟音とともに勢いよく吹き当たる。現在はどの坑道も入り口がふさがれているが、この風を通じて採掘が盛んに行われていた頃の坑道内の活気や喧噪がうかがい知れる。

ここでは、厳冬期には氷点下20度にもなる。鉱山を知る人はこう言う。「ここ(若松鉱山)では雪が下から吹き上がる。」

1. はじめに

若松鉱山の主要施設のある7号鉱床と谷間を隔てた南5号鉱床にある索道起動所へ向かう道を歩きながら後ろを振り返ると、遙か先の稜線に鳥根県との県境にある船通山せんつうざんが見える。また、鉱山を山深く歩き続けて行き着く堰堤の奥は、広島県との県境にある道後山どうごやまにつながる。この間延々と続く水路は、各作業所や生活のために欠かせない水を運ぶいわば「若松の命綱」であった。そのため厳冬期であっても、水路にトラブルが発生したら、命がけで補修に向かったと当時を知る人は話す。

日南町にちなんちやうは鳥取県の最西南端に位置し、県土の10分の1に当たる約341平方キロメートルの面積を有しており、東京の山手線の内側とほぼ同等の広さに相当する。人口は平成21年3月末で6,000人を割った、少子高齢化の著しい典型的な過疎の町である。昭和34年4月に日南町として合併するまで、「多里村たりそん」は、73

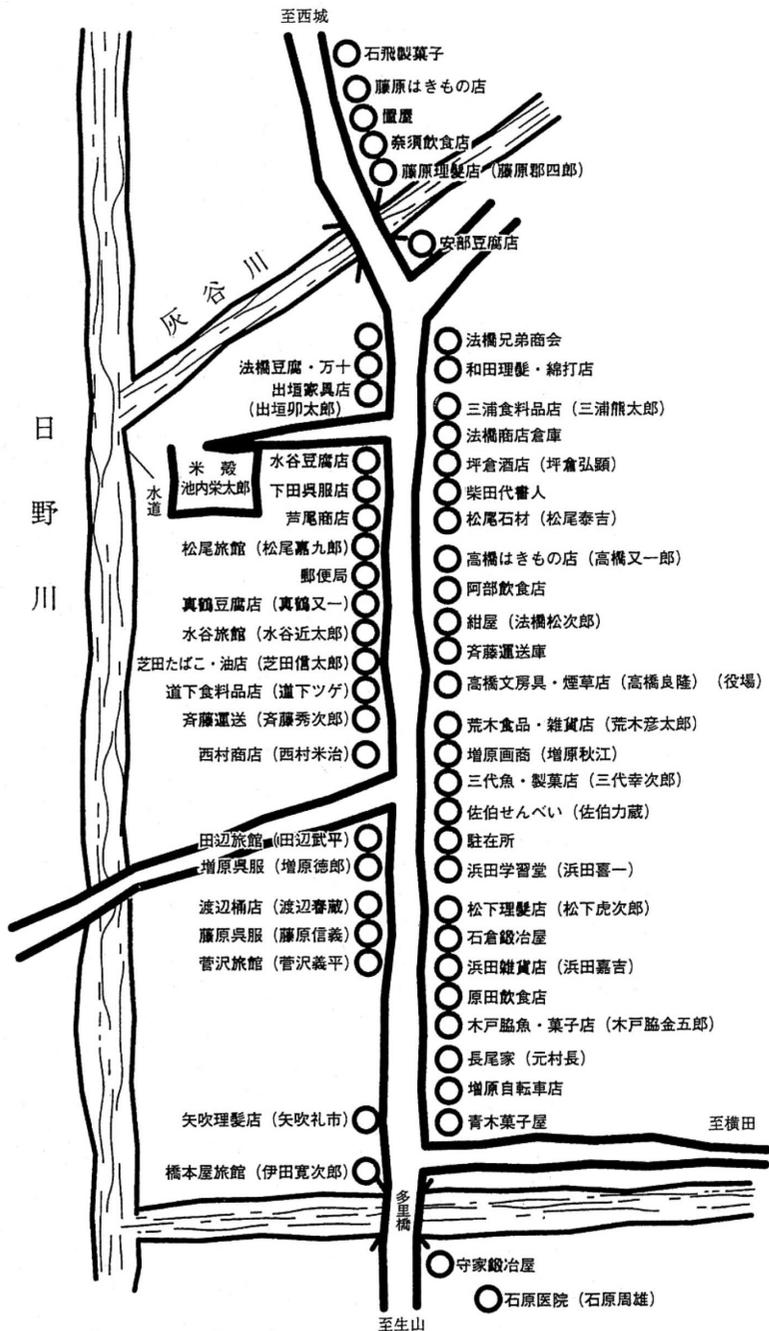
平方キロメートルと、町土の21%の面積を有する地域で、若松・広瀬の両鉱山をかかえていた。日南町が鳥取県の最西南端であるということは、いうまでもなく多里地域は日南町の最西南端であり、古くから「たたら製鉄」が行われ、山陰と山陽の人の行き来が盛んな宿場町として栄えた地域であった。このような地に鉱山がもたらしたものは、どのようなものであったのだろうか。

2. 地域経済の活性化

多里村には、多里、湯河、新屋、萩原、上萩山地区があり、北東部米子方面に萩原、鳥根県境に接する上萩山、広島県境国道沿いに広瀬鉱山のある新屋、同じく広島県境東側に接し若松鉱山がある湯河が位置し、それらすべての地区の中心に位置し人口の密集した地区が多里であった。多里地区の中心街は、国道183号線の北側に平行する町道沿いに家屋が集中している。今では旧村役場の建物もなくなり、静かなたたずまいを残すのみであるが、大正10年頃の町並み(第1図:「日南町商工会45年誌」)や昭和30年代の町並み(第2図:多里まちづくり協議会作成)と商店の一覧(第1表)を見ると、商店や旅館、飲食店はもちろん、映画館やパチンコ店、置屋、鍛冶屋などもあり、当時のにぎやかさがうかがえる。また、町並みの中ほどには鉱石や資材を運んだ車両が集まる基地もあり、人々はこの場所を「駅」と呼んだ。年に数回は市が立ち並び、普段の数倍もの人であふれかえった。また秋の大祭には五穀豊穡を祝い、鮮やかな彩りの衣装をまとった若い衆が太鼓を叩きながら、多里神社までの道のりを練り歩く「かしらうち」が明治以前から執り行われており、その文化は今も受け継がれている。

1) 鳥取県 日南町役場
689-5295 鳥取県日野郡日南町霞800

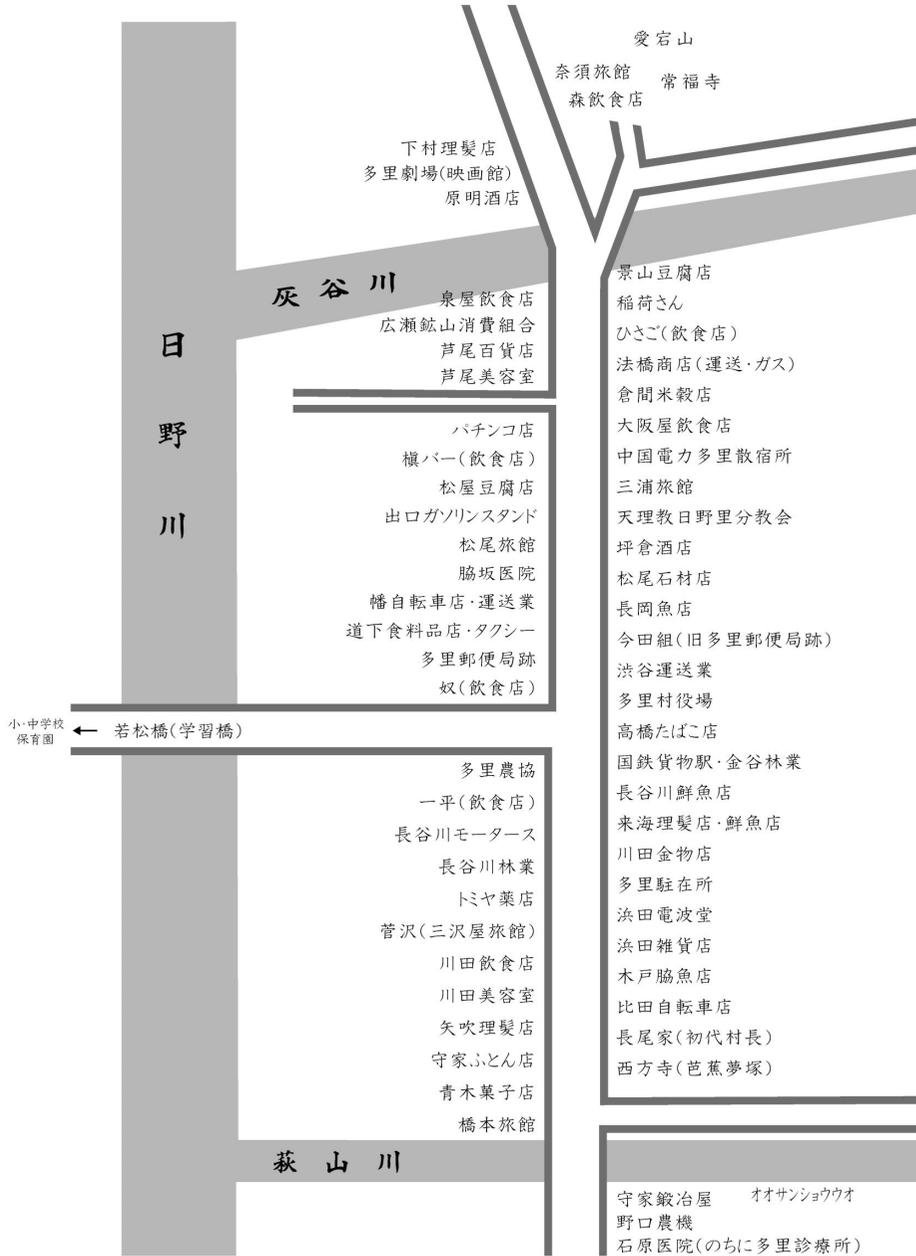
キーワード: 近代化産業遺産, クロム鉱山, 多里地域, 地域経済



第1図 大正10年頃の多里商店街。

昭和35年の国勢調査によると多里地域の人口は2,556人で、日南町の総人口15,286人の16.8%に過ぎないが、多里地域の税収は、昭和33年度日南町税収の30.3%を占めていた。昭和34年11月号と12月号の「町報にちなん」では、「町税多額納税者番付」が紹介されており、個人町民税や固定資産税法人分で多里

地域の個人や法人が数多く紹介されている(この当時は個人情報行政広報紙に堂々と掲載されている)。この国勢調査によると日南町内の鉱業従事者が261人で、このほとんどが多里地域の人であった。「町報にちなん」(昭和36年12月号)では、「若松鉱山の常勤従業員が110人、臨時的雇用や家族も合わせれば



第2図
昭和30年代の多里。
(人口:2,500人)

関係者は500人前後であった」ことから、広瀬鉱山を含めればかなりの関係者の人数にのぼると推測される。鉱山に至る道の改良や生山駅への運送に関わる建設業や運輸業、さらに先にふれた商業関係者を含めると、鉱山が多里地域の産業活性化と村財政に与えた影響は計り知れない。

3. 町村合併前の村財政

昭和34年度の9月、合併直後の日南町議会で認定に付された旧町村の決算書では、「多里村」の経済力がうかがえる。(第2表)多里村の歳入総額は2,010万円、特徴的なのは、税収が1,219万円、全体の

第1表 多里のまちの商業。

	明治13年頃	大正10年頃	昭和30年代
宿屋・旅館	7	5	5
糍	5		
魚	7	2	4
醤油	4		
菓子・製菓	1	5	1
小間物	1		
理髪	1	4	3
小売行商	2		
傘	1		
洋反物	3		
紙	1		
飲食		4	7
食料品		3	1
酒(酒造も含む)		1	2
米		1	1
豆腐		4	2
履き物		2	
置屋		1	
家具		1	
呉服		3	
たばこ		3	1
油・ガソリン・ガス		1	2
桶		1	
石材		1	1
紺屋		1	
文房具		2	
自転車		1	2
画商		1	
代書人		1	
運送		2	5
鍛冶屋		2	1
雑貨		1	1
商店 (取扱品不明を含む)		3	1
医院		1	2
美容院			2
映画館			1
パチンコ			1
タクシー			1
自動車			1
薬			1
ふとん			1
金物			1
電器			1
農機			1
林業			2
建設業			1
農協			1

※明治の数は、鑑札の資料より。

60%を超える割合を占めていることである。基準財政需要額を上回る基準財政収入額のため、地方交付税の不交付団体であったと思われる。合併直後の昭和34年度日南町決算における税収割合が42.0%、さらに、平成20年度日南町の決算における税収の割合がわずかに7.2%であることを勘案すれば、当時の多里村の税収が驚異的な割合を占めていたことがわかる。

さて、昭和33年度の多里村の村税の内訳を見ると、村民税598万円、鉱産税274万円でこの二税で税収総額の71.6%を占めている。伯南町にも鉱山が1ヶ所ありそのため鉱産税の決算額が生じているが、多里村とは額が大幅に異なる。旧町村の中で最も特徴的なのが、多里村の村民税が突出していることである。前述の地方交付税額との対比でよく現れている。その一方で固定資産税が相対的に低い。同等の人口規模の高宮村たかみやそんの固定資産税529万円に比べ、多里村216万円はあまりにも低い額である。多里宿と呼ばれていた明治時代初等から中頃にかけて鉄山の不況と言われた時代には、現在の固定資産税が国税として徴収されていた「地租」は、それまでたたら製鉄を主業としていた多里宿は相対的に少なかった。「奥日野の村の中でも、多里村が一番苦しかったようだ」(日南町史)。明治43年には税率の大幅減税措置を議決している(日南町史)。いわゆる製鉄業から鉱山へシフトしていった多里村は昭和の時代にもやはり固定資産税収入が依然として低かった。当時の税の資料が散逸しており詳細は不明であるが、税率は変わっていなかったにもかかわらず、当時を知る地元の人によると、鉱産税などの税収の引き替えに課税標準額を抑制していたのではないかという見解や、社宅や村営住宅に多くの方が住んでいたため固定資産税額が少なかったという意見もある。なお、日南町の合併後、多里地域は1世帯当たりの固定資産税額が合併前と比べ2,519円という大幅な増加となった(日南町史)。

4. 今後の産業遺産の保存と活用について

平成19年に、多里地域では、多里の鉱山の学術的価値についての勉強会と講演会が開催された。そして平成20年には「多里の鉱山を語り継ぐ会」が発足。かつて若松鉱山、広瀬鉱山で働いていた人々によって、当時の鉱山の様子や多里地域の繁栄の歴史を後

第2表 昭和33年度一般会計決算一覧(旧町村別).

昭和34年度決算
(参考)

昭和35年度国調人口	5,503	2,537	2,566	3,192	1,488	15,286 (人)
区域内面積	91.78	85.41	72.61	52.48	38.59	340.87 (km ²)

[歳入]	(日野上・山上)(大宮・阿毘縁)						[単位:円]	[歳入]
区 分	伯南町	高宮村	多里村	石見村	福栄村	計	日南町	
町・村税	12,022,800	6,774,654	12,185,628	6,426,717	2,827,318	40,237,117	44,033,929	
町・村民税	1,966,113	503,171	5,982,164	423,915	615,180	9,490,543	11,441,000	
固定資産税	6,524,605	5,292,406	2,164,509	5,038,952	1,685,190	20,705,662	21,547,819	
軽自動車税	118,220	31,336	31,110	25,482	25,310	231,458	299,938	
自転車荷車税	200	14,700	2,100	940	3,600	21,540	11,360	
タバコ消費税	1,247,380	513,860	556,150	532,930	223,350	3,073,670	3,283,510	
電気ガス税	714,366	160,057	379,566	239,498	92,173	1,585,660	1,789,185	
鉦産税	35,007	0	2,744,250	0	0	2,779,257	3,977,985	
木材引取税	1,416,909	259,124	325,779	165,000	182,515	2,349,327	1,683,132	
地方交付税	8,394,000	4,648,000	0	3,352,000	2,937,000	19,331,000	24,674,000	
普通交付税	7,999,000	4,426,000	0	3,352,000	2,937,000	18,714,000	20,496,000	
特別交付税	395,000	222,000	0	0	0	617,000	4,178,000	
財産収入	14,320,753	971,432	1,494,603	1,128,568	95,240	18,010,596	632,733	
分担金・負担金	452,826	0	0	0	0	452,826	953,675	
使用料・手数料	233,863	106,300	421,900	138,410	67,925	968,398	1,387,739	
国庫支出金	2,496,490	2,031,421	2,906,724	342,686	253,902	8,031,223	9,726,390	
県支出金	1,614,537	468,487	259,519	67,619	49,773	2,459,935	3,365,142	
寄附金	706,611	896,750	62,800	145,000	183,345	1,994,506	4,785,800	
繰入金	0	0	0	0	0	0	131,405	
繰越金	1,197,012	174,232	929,134	801,606	265,575	3,367,559	722,655	
雑収入	6,582,961	748,591	441,634	39,480	498,174	8,310,840	6,737,212	
町・村債	0	3,900,000	1,400,000	0	0	5,300,000	7,650,000	
歳入計	48,021,853	20,719,867	20,101,942	12,442,086	7,178,252	108,464,000	104,800,680	

生に語り継いでいこうと、資料や写真の収集が始まった。さらに翌、平成21年3月には地域の地元住民代表、そして学識経験者や鉦山関係者、行政関係者による「若松鉦山活用検討会」の第1回会議が開催された。その会議では、

- ①山元については、屋根等を修復し現状保存をする。
- ②ガイドによって当時の様子そのままを見てもらえるような体制の構築。

③平成20年度をもって廃校となった「多里小学校」を利用して資料展示をする。

などの意見が出された。

日本の近代化を陰で支え続けた鉦山の操業は、多里のまちに繁栄をもたらした。今後、地域の産業の歴史とともに比較的新しく生まれたり発見されたりした価値をも学習し、地域の誇りとして活用していきたい。

Nichinan-cho (2009) : Influences of chromite mines of Tari area, Nichinan-cho, Tottori, Japan.

<受付: 2009年10月20日>